高　等　学　校

平成２７年度

教育研究員研究報告書

公　民

東京都教育委員会

目　次

Ⅰ　研究主題の設定理由・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

Ⅱ　研究の視点・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2

Ⅲ　研究の仮説・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3

Ⅳ　研究の方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4

Ⅴ　研究の内容・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5

Ⅵ　研究の成果・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 23

Ⅶ　今後の課題・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 24

研究主題	社会参画力を育むための主体的・協働的な学習の指導の在り方

Ⅰ　研究主題の設定理由

現代社会は、世界的に資源・エネルギー問題、地球環境問題、紛争、テロ等、様々な問題を抱えている。さらに、我が国に目を向けると知識基盤社会の進展、グローバル化による国際競争の激化、国内産業の空洞化、少子高齢化による生産年齢人口の減少、雇用環境の変化及び雇用ニーズの変化等、様々な問題が山積している。このような問題に対して、将来を担う生徒たちはその解決に向け、取り組んでいくことになる。

高等学校学習指導要領では、基礎的・基本的な知識・技能の習得とともに、思考力・判断力・表現力等を育成することの重要性が指摘され、各教科等において言語活動の一層の充実を図ることが示されている。また、公民科においては生徒の課題追究的な学習、公共的な事柄に自ら参画していく資質能力の育成､人間としての在り方生き方を一層深めることが求められている。「初等中等教育における教育課程の基準の在り方について（諮問）」（文部科学省　平成 26 年 11 月 20 日）では「新しい時代に必要となる資質能力の育成」が必要であるとされた。特にこれからは「実社会の中で知識・技能を活用しながら、自ら課題を発見し、主体的・協働的に探究」することができる指導方法が求められる。また、「社会の変化に対応する資質や能力を育成する教育原理」（国立教育政策研究所　平成 25 年３月）の中で、21 世紀を生き抜く力を「21 世紀型能力」と定義した。これは「生きる力」の中で、特に教科・領域を横断的に学習することが求められる能力を汎用的能力として抽出し、「思考力」、「基礎力」、「実践力」によって構成したものである。21 世型能力の「実践力」では、社会の諸問題を見付け自分で考え、調べ、他者と調整し解を導くことが求められている。つまり、主体的に動き、他者と協働していく教育活動を増やしていくことが求められていると言える。

このような状況を踏まえ、本部会では、グローバル化の進展や変化の激しい知識基盤社会の到来の下、生徒自身が様々な問題について主体的に考え、合意形成することを目的として、生徒に「思考力」、「基礎力」、「実践力」を身に付けさせるための手法を研究することとした。なお、本部会では、身に付けさせたい「思考力」、「基礎力」、「実践力」とは何かを公民科の視点から検討した。協議を重ねていく中で、公民科においては現代の諸問題を改善していく力、地域の諸課題に対処していける力を社会参画力と定義し、この力を生徒に身に付けさせることが教科としての目標とも合致すると考えた。具体的には、身近な社会の諸問題に対処する中で改善し、よりよい社会の形成に自ら参画していく資質や能力を育成することである。社会参画力を高めるためには、生徒たちが社会の諸問題に対して当事者として主体的に考える必要がある。また、問題を解決するためには他者との合意形成が必要であり、議論が必要となる。

社会の諸問題を主体的に考え、議論を行っていくためには、生徒に現代社会の諸問題に気付かせ自分で考えを表明させ、論理的思考力を使い自分の考えを深めさせ、他者と公正に議論しまとめさせることが重要である。また、その過程を振り返ることで、学びの意義を認識し、学習指導要領の中で公民科に求められている社会参画力を育むことにつながると考えた。

以上の理由により、今年度の本部会では、研究主題を「社会参画力を育むための主体的・協働的な学習の指導の在り方」とした。

Ⅱ　研究の視点

本研究では、研究の中核となる「公民科における思考力・基礎力・実践力」の定義を行った上で、研究及び検証授業を行った。

１　公民科における思考力・基礎力・実践力の定義

国立教育政策研究所は、「21 世紀型能力」を「思考力」、「基礎力」、「実践力」から構成されるとし、その育成が求められている、とした。「思考力」は問題解決のための能力とし、「基礎力」を教科・領域横断的に求められる基本的な能力としている。また、「実践力」は「自律的活動力」、「人間関係形成力」、「社会参画力・持続可能な未来への責任」で構成され実生活で活用していくための能力としている。本部会のテーマである「社会参画力」は社会の一員としての責任を自覚し、様々な問題に協働して創造的に取り組むこととされている。

今年度の高等学校各部会の共通テーマは「『思考力』、『基礎力』、『実践力』を育むための、主体的・協働的な学習の指導の在り方」である。公民科として「思考力・基礎力・実践力」の定義を以下のとおりとした。

思考力：社会的事象を把握、分析、価値判断、意思決定などができる能力

基礎力：思考するために必要な言語的、数量的、情報リテラシーなど

実践力：社会的事象に対して、様々な立場に立ち、見方や考え方を用いて公正に判断して他者との合意形成を図りながら社会参画し続けようとする資質や能力

２　研究及び検証授業における二つの視点

（１）公民科授業において社会参画力を育むという視点

本部会では、生徒が社会的諸問題を当事者意識で捉え、課題を考えて意思決定させるだけなく他者と合意形成を図ることで社会認識が深まり、社会の諸問題に対する、当事者として主体的に考える態度が高まっていくことを授業の目標とした。そして、その目標達成は、これまでの知識偏重型の受動的な授業実践では難しいと分析した。国立教育政策研究所が「実践力」育成のために「現実のリアルな課題をもとに問題解決プロジェクトを設定し、具体的な経験や体験を通じた課題探究型の学習などをデザインしていく必要がある」と指摘しているように、身近な問題や現実のリアルな問題を解決していく主体的な学習が社会参画力育成には必要である。

（２）社会参画力を育むための主体的・協働的な指導という視点

社会参画力を高めるためには自分だけでなく他者との関係も重要になる。他者と関わることで、自分の認識を深め、他者の考えを傾聴することで共通点や相違点に気付くことができ社会の形成者としての資質が育成できると考えた。このような考えから本研究では、主体的・協働的な学習を通じて「思考力」、「基礎力」、「実践力」の向上、社会参画力を高める指導の在り方についての実践事例を提示した。

Ⅲ　研究の仮説

本部会では、中央教育審議会が検討している学習指導要領の改訂の検討内容を基にこれまでの授業実践を振り返り、これからの時代に求められる公民科の授業について検討を行った。「Ⅰ研究主題の設定理由」で述べたように、「初等中等教育における教育課程の基準の在り方について（諮問）」（文部科学省　平成 26 年 11 月 20 日）では「新しい時代を生きる上で必要な資質・能力を確実に育んでいく」ために、未来に向けて指導要領の改善を図ることが示され、本部会においても国立政策研究所が提言した「21 世紀型能力」を育むために重要なものは何かを重点に検討を行った。本部会では、「社会参画力」に注目する中で、社会参画力を育むための主体的・協働的指導の在り方を課題とし、以下の仮説を設定した。

意思決定及び他者と合意形成を図る学習を行うことで、社会的事象を当事者として捉え学習意欲が喚起され主体的に取り組むことができる。また、他者と協働することで社会的事象を多面的・多角的に理解し公正な判断に近付くことができる。その学習プロセスを振り返ることで社会参画力の変容に気付き、社会認識をより深めることができる。

上記の仮説は、以下の二つの部分から構成されている。

（１）意思決定及び他者と合意形成を図る学習を行うことで、社会的事象を当事者として捉え学習意欲が喚起され主体的に取り組むことができる。また、他人と協働することで社会的事象を多面的・多角的に理解し公正な判断に近付くことができる。

「社会参画力」を育むためには社会的諸問題に当事者意識をもち、問題を考え参画し続ける態度が必要となる。そのためには、生徒が社会的諸問題を当事者として考え探究することが重要となる。つまり、主体的に取り組む姿勢を実際の社会的問題から引き出すことができ、社会に対する知的好奇心が向上することができると考えた。この学習意欲、知的好奇心の向上により社会の見方、考え方も深めることができると考えた。また、社会参加には他者との協働が必要である。協働には３点の効果があると考えられる。第一は、人間関係を形成していく力を育成することである。問題を解決していくには、自分と異なった考えの他者と敵対するのでなく効果的なコミュニケーションを取り、よりよい人間関係を形成していく力が必要である。第二は、自己認識が深まることである。他者の考えや視点を通して、自分の考えを客観視することで自分の考えをまとめる力や他の視点から物事を考えられるようになると考えられる。第三は、公正な判断に近付くことができる。他者との協働は、意見の傾聴を必要とし、そこから多角的な視点に立ちより公正な判断に近付くことができると考えられる。

（２）その学習プロセスを振り返ることで社会参画力の変容に気付き、社会認識をより深めることができる。

これまでの主体的な学習においては、「振り返り」が重視されることはあまりなかった。「振り返り」は過去の学びを現在・未来に生かすことである。振り返りには以下の効果があると考えられる。振り返ることで知識を定着させる、学習の意義を再確認できる、これまでの行動を思い出し新たな気付きを得る、考え方を深めることができる、自己の価値に気付くことができることなどが得られると考えられる。振り返りを行うことでこれらの効果を生み思考力、基礎力、実践力を育み社会認識を深めることができる。また、社会問題を主体的に考えることで社会の見方、考え方が変わり、より主体的に社会参画を行うようになると考えられる。

Ⅳ　研究の方法

Ⅲで示した仮説に基づき、指導及び学習評価に際しては、次のような具体的方策を採用することとし、仮説の実証性を確かめるために、生徒のワークシートの記載内容の変化等を検証することとした。

具体的方策

（１）各単元の冒頭で社会的事象に関する課題を提示し、各単元の冒頭と、見方・考え方を学んだ後に意思決定させる。グループワーク、話し合い、討論等の集団学習を行い、自分の考えを論理的に表現し合う中で、他者の意見を傾聴して公正に判断した上で他者と合意形成を図り、その成果をまとめさせる。

生徒の興味・関心を引き出すために、単元の冒頭に社会的事象に関する課題に対して自分の考えをワークシートに表現させることにした。その後、社会的な見方、考え方のツールを教員が教科書あるいは資料等から学ばせる。このことで、自分の考えをより深く、論理的に表現させることができると考えられる。次にグループワーク等、他者と協働して社会問題について考えグループで一つの意見をワークシートにまとめさせる。他者の意見を傾聴することでより多角的視野に立ち公正な判断に近付くと考えられる。

（２）この過程を振り返ることで、学習過程ごとの社会認識や社会に主体的に関わる態度が変容したことに気付き、社会参画していくための資質や能力を育む。

単元の最後に振り返りシートを用意し、単元で学んだことを振り返り、社会認識の変容、思考の変容、態度の変容、他者と協働したことで何が変わったのかを気付かせる。

検証方法

単元の１時間目、協働的な学習を行った後、単元の終わりにワークシート及び振り返りシートを書き、その記述内容の変化を基に検証を行う。

Ⅴ　研究の内容

1　研究構想図

高校公民部会

全体テーマ　**思考力・判断力・表現力等を高めるための授業改善**

高校部会テーマ　**「思考力」、「基礎力」、「実践力」を育むための、主体的・協働的な学習の指導の在り方**

各教科等における「思考力」、「基礎力」、「実践力」の定義

思考力： 社会的事象を把握、分析、価値判断、意思決定などができる能力

基礎力： 思考するために必要な言語的、数量的、情報リテラシーなど

実践力： 社会的事象に対して、様々な立場に立ち、見方や考え方を用いて公正に判断して他者との合意形成を図りながら社会参画し続けようとする資質や能力

高校部会テーマにおける現状と課題

現状：これまでも資料やグループワーク等を用いた実践を行ってきたが、生徒が社会的事象に対して当事者意識を十分もてず、様々な立場に立ち、他者と熟議し、見方や考え方を用いて公正に判断して社会参画するまでの興味・関心を引き出すまでには至っていない。

課題： 主体的に社会参画する態度を育成するために、見方や考え方を教えるだけでなく当事者意識をもたせた上で、他者と合意形成を図る主体的・協働的実践をどのように行っていくかが課題である。

高等学校公民部会主題

社会参画力を育むための主体的・協働的な学習の指導の在り方

仮　説

意思決定及び他者と合意形成を図る学習を行うことで、社会的事象を当事者として捉え学習意欲が喚起され主体的に取り組むことができる。また、他者と協働することで社会的事象を多面的・多角的に理解し公正な判断に近付くことができる。その学習プロセスを振り返ることで社会参画力の変容に気付き、社会認識をより深めることができる。

具体的方策

（1）各単元の冒頭で社会的事象に関する課題を提示し、各単元の冒頭と見方・考え方を学んだ後に意思決定させる。グループワーク、話し合い、討論等の集団学習を行い、自分の考えを論理的に表現し合う中で、他者の意見を傾聴して公正に判断した上で他者と合意形成を図り、その成果をまとめさせる。

（2）この過程を振り返ることで、学習過程ごとの社会認識や社会に主体的に関わる態度が変容したことに気付き、社会参画していくための資質や能力を育む。

検証方法

学習過程ごとの社会認識や社会に主体的に関わる態度の変容に着目しながら、学習の振り返りシートを分析し、学習の意義や社会における自己の価値に気付いたかどうか、また社会参画力が育まれているか、学習の内容の記述の変化をもとに検証する。

２　実践事例Ⅰ

科目名	倫理	学年	第２学年

（１）単元名、使用教材

・単元名　　（２）人間としての在り方生き方

　　ア　人間としての自覚

・使用教材　第一学習社『高等学校　倫理』

（２）単元の指導目標

・　現実の倫理的課題について、古代中国の先哲の思想を用いて意思決定及び他者と合意形成し社会参画することができる。

・　学習プロセスを振り返ることで、学習の意義を理解することができる。

・　孔子、孟子、荀子、韓非子の思想を理解することができる。

（３）単元の評価規準

ア　関心・意欲・態度	イ　思考・判断・表現	ウ　資料活用の技能	エ　知識・理解
① 古代中国の思想について考察しようとしている。 ② 古代中国の思想と現代の倫理的課題について関心を高め、意欲的に追究しようとしている。	① 現代の倫理的問題について考えたことを具体的に表現してオリジナリティある提案書を書くことができている。 ② 現代の倫理的問題を考える際、重視する先哲の思想を明らかにして公正に判断している。	① 孔子、孟子、荀子、韓非子などに関する諸資料を読み取り、学習に役立つ情報を適切に選択して、効果的に活用している。 ②現実の事例に関する情報を読み取っている。	①孔子、孟子、荀子、韓非子の思想について理解している。 ② 諸子百家が登場する時代背景について理解し、その知識を身に付けている。

（４）単元の指導と評価の計画（５時間扱い）

時	ねらい・主な学習活動	評価の観点				評価規準（評価方法）
		関	思	技	知	
第1時	【ねらい】　「電車の優先席」をめぐる社会問題があることを知り、その問題を考える概念として孔子の思想を理解することができる。					
	・「電車の優先席」をめぐる社会問題があることを知り、既存の知識を用いて最初の意思決定を行う。		●			・１回目の意思決定している。（ワークシート T1*）
	・上座を当てるゲームを通して「孝」を理解する。				●	・孔子は、身近な人への思いやり、目上の人への敬意を重んじたことを理解している。（発言・考査）
	・「孔子の家で働く少年」の事例から「仁」、「面接の服装」の事例から「礼」を理解する。				●	・仁の中心は忠恕と孝悌で、忠恕は他者への思いやり、孝悌は父母や兄に仕えることを理解している。（ワークシート）
	・孟子、荀子へつながる儒家集団ができることを理解する。				●	・仁・礼で重視するものが違ってくることを理解している。（考査）

T1*　生徒の思考の変容を捉えるため、学習内容に対する生徒の意見や思い、考え方などを時間ごとにワークシートに書かせたもののうち１回目のこと。授業の進行段階ごとに

T1：第１時の学習の冒頭

T2：第２時までに社会的事象に関する見方・考え方を学んだ後

T3：第３時のグループ討論後

T4：単元の全学習活動終了後

と位置付け、生徒の考え等を記録させた。

第2時	【ねらい】　「電車の優先席」をめぐる社会問題を考える概念として孟子、荀子、韓非子の思想を理解することができる。					
	・「踏切内のおばあちゃん、助ける？」の事例を考える。	●				・千葉日報「女子高生４人お手柄」(2015/8/12)を読み、自分ならどう行動するか考えている。(発言)
	・「井戸の子ども」の事例から、孟子の性善説を理解する。				●	・人間には、四端(惻隠、羞悪、辞譲、是非)が備わっており、四端を育むことで四徳である仁、義、礼、智が実現されるとする考え方を理解している。(ワークシート・考査)
	・「もし、ルールや法がなかったら？」を考えることを通して、荀子の性悪説を理解する。				●	・人の欲望を礼によって矯正する性悪説の考え方を理解している。(ワークシート・考査)
	・「矛盾」がどのような話かを確認することから韓非子の儒家批判を、「侵官之害」の話でなぜ韓王は典冠と典衣を処罰したのか考えることから法治主義を理解する。				●	・韓非子が儒家批判をしたこと、法治主義を唱えたことを理解している。(ワークシート・考査)
	・「電車の優先席」について、自分の重視する価値を明らかにして２回目の意思決定をする。		●			・孔子、孟子、荀子、韓非子の思想を踏まえて２回目の意思決定している。（振り返りシート T2)
第3時（本時）	【ねらい】　孔子、孟子、韓非子の思想を用いて、「電車の優先席」をめぐる社会問題について意思決定し、合意形成を図ろうとすることができる。					
	・電車の優先席のマナーについての前の時間に書いた自分の考えを思い出す。	●				・きまりやルールにして取り締まったほうがよい(20 人)、きまりやルールにして取り締まる必要はない(11 人)、その他(4 人)の結果を見て、自分の考えを思い出している。(発言)
	・孔子、孟子、韓非子の思想を思い出す。			●		・孔子、孟子、韓非子の思想を思い出している。(ワークシート)
	・様々な立場の資料を読み、四人一組で議論し、結論付ける。		●			・トゥールミン図式や四人一組での議論で、意思決定・合意形成を図ろうとしている(ワークシート・発言)
	・第１時の自分の考えと、議論の結果を踏まえて書いた自分の考えの変容を確認する。	●				・自分の考えの変容を確認している。（ワークシート）
第4時	【ねらい】　「電車の優先席」をめぐる社会問題について、X 電鉄に提案書を書くことができる。					
	・X 電鉄の出した結論を検討し、自分の考えを提案書 A4・１枚にまとめる。		●			・「優先席は混雑時のみ電源オフ」、「マナーとして席を譲ることを呼び掛ける」東急の結論を理解している。（発言）
	・教師のアドバイスを受け、修正する。		●			・提案書を修正している。（提案書）
	・教員が数枚選び、X 電鉄に提案する。		●			・教員に提案書を提出している。
第5時	【ねらい】　提案書への X 電鉄本社の方のコメントを聞き、自分の考えを振り返ることができる。					
	・X 電鉄本社の方２名に来校してもらい、提案書へのコメントを聞く。	●				・X 電鉄本社の方のコメントを聞き、メモをしている。（ワークシート）
	・「電車の優先席」について、自分の重視する価値を明らかにして３回目の意思決定をする。		●			・孔子、孟子、荀子、韓非子の思想を踏まえて３回目の意思決定している。（振り返りシート T3)
	・考えや態度はどのように変容したのか振り返る。	●				・自分の考えの変容を確認している。（ワークシート）

（５）本時（全５時間中３時間目）

ア　本時の目標

孔子、孟子、韓非子の思想を用いて、「電車の優先席」をめぐる社会問題について意思決定し、合意形成を図ろうとすることができる。

イ　本時の展開

時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点	評価規準 （評価方法）
導入 15 分	・電車の優先席のマナーついて前の時間に書いた自分の考えを思い出す。 ・これまで学習した孔子、孟子、荀子と韓非子の思想を確認する。	・X 電鉄の優先席に貼られているポスターを提示する。第１時に書かせた自分の考えを数人に発表させる。	ア-②(発言) ウ - ① (ワークシート)
展開 25 分	・足が不自由な高齢者が、優先席で携帯電話を使っていた男性に腹を立てて包丁を突きつけた事件の資料を読む。 ・優先席が適切に使われていないという主張の資料を読む。 ・優先席のマナーを決まりやルールにして取り締まった方がよいか。それとも別の方法があるか考える。 ・起立性障害で席を譲ることが難しい女子高生の声が書かれた資料を読む。 ・携帯電話はペースメーカーに影響を及ぼさないという総務省の実験結果を資料から読み取る。 ・ペースメーカーを付けていて、携帯電話を不安に思う人もいることを確認する。 ・改めて優先席のマナーを決まりやルールにして取り締まった方がよいか。それとも別の方法があるか考える。 ・優先席のマナーについて、各班で発表する。 ・2015 年 10 月 1 日から X 電鉄は「混在時のみ電源オフ」に表示を切り替えることを知る。	・毎日新聞「神奈川版　記者のきもち：気持ちよく譲り合い」2015/8/27 を配布する。 ・大阪日日新聞「金井啓子のなにわ現代考　適切に使われない優先席」2015/7/14 を配布する。 ・一人でトゥールミン図式をつくらせ、孟子の思想や韓非子の思想など、自分が重視する価値を自覚させる。 その上で、四人一組で議論させる。 ・朝日新聞 be 日曜版「悩みのるつぼ　席を譲ることができない私」2013/1/5 を配布する。 ・総務省「各種電波利用機器の電波が植込み型医療機器等へ及ぼす影響を防止するための指針」2015 年 3 月を配布する。 ・朝日新聞「優先席付近の『電源オフ』必要なの？」2015/8/11, 29 面を配布する。 ・四人一組で話し合わさせる。 X 電鉄がマナーの変更を検討していることを伝え、具体的な解決策を考えさせる。 ・黒板に各班の結論を書かせる。 ・X 電鉄「ニュースリリース」2015/9/17、朝日新聞「優先席の携帯オフ混雑時のみ」2015/9/18 を配布する。ただし、この結論が絶対に正しいわけではないことを伝える。 「不安が残る人がいる」ことに注目させ、それにも配慮して次回、X 電鉄に提案書を書くことを伝える。	ウ-②(観察) ウ-②(観察) イ - ② (ワークシート) ウ-②(観察) ウ-②(観察) ウ-②(観察) イ-②(発言) イ - ② (ワークシート) ウ-②(観察)
まとめ 10 分	・第１時で書いた自分の考えと、議論の結果を踏まえて書いた自分の考えの変容を確認する。	・ワークシートに記入させる。	ア-②(ワークシート)

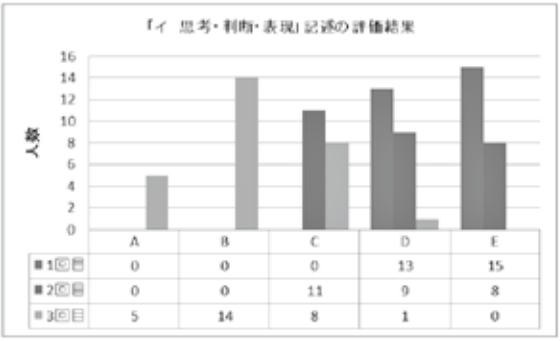
（６）単元の振り返り

ア　仮説の検証

（ア）意思決定及び他者と合意形成を図る学習を行うことで、当事者として社会的事象を捉えることができ学習意欲が喚起される。また、他人と協働することで公正な判断に近づくことができる。

ｉ）検証方法と結果

仮説を検証するために、振り返りシートを３回記入させた。１回目は、孔子・孟子・荀子・韓非子の思想を学んだり他者と議論したりする前に記入させた。２回目は、孔子・孟子・荀子・韓非子の思想を学んだ後に記入させた。３回目は、孔子・孟子・荀子・韓非子の思想を学び、他者と議論し、X 電鉄の方と話した後に記入させた。本実践では、「当事者として社会的事象を捉える」とは、振り返りシートの記述や提案書の内容が具体的でオリジナリティがあり実現可能性が高いこと、「公正な判断」とは、振り返りシートの記述や提案書の内容が自分と考えが異なる他者や少数者など全員に配慮していることと考えることができる。そこで、３回の振り返りシート「イ　思考・判断・表現」を分析し、生徒はどのように変容したのかを明らかにする。結果は以下のとおりである。



※「孔子・孟子・荀子・韓非子の思想のうち、どれを重視するか明らかになっているか」、「全員に配慮しているか（公正な判断）」、「提案は具体的か」「提案はオリジナリティがあるか」という評価規準のうち、A：全て満たしている、B：三つ満たしている、C：二つ満たしている、D：一つ満たしている、E：どれも満たしていない、とした。

ⅱ）考察

１回目はD・E評価が多く（100%）、２回目はC・D評価が多く（71.4%）、３回目はA・B評価が多い（67.9%）結果となった。また、A・B評価に限れば１回目と２回目は０%なのに対し、３回目は67.9%と大幅に伸びている。これは、実際にX電鉄に提案書を提出するという社会参画が大きなインセンティブになっていた。以下に生徒の提案書の一例を載せる。

「優先席の席を譲るマナーと携帯電話使用」についての提案

1　提案内容

（1）車内で立ちたくなる工夫として、消費カロリーを表示する。
（2）座席の位置を変更する。
（3）高齢者以外の優先者はマークを付けて譲りやすく座りやすくする。
（4）優先席に座る人だけ携帯電話使用不可のルールを作る。

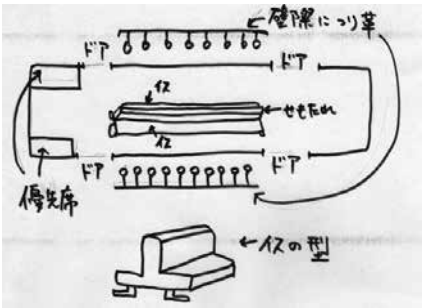
2　提案の説明

（1）車内で立ちたくなる工夫として、消費カロリーを表示する。

電車の中の電子掲示板で、「○駅分立ったら、消費カロリーは○kcal」という表示をします。若い女性や、体型が気になるお父さんなど「ちょっと立ってみようかな」と思ってくださるはずです。

（2）座席の位置を変更する。

電車の中で立っていたくない理由は、立っているのがつらいからです。座れないときは壁際を確保して寄りかかるなど、少しでも楽になろうと考えます。そのため、立っている人を壁際にすればよいと考えました。車両を真上から見た図を示します。



（3）高齢者以外の優先者はマークを付けて譲りやすく座りやすくする。

妊婦さんや持病がある人は、病院で、身に付けるマークをもらい、分かりやすいようにしたらよいと思います。また、車内には、マークを付けている人には席を譲るように呼びかけます。

（4）優先席に座る人だけ携帯電話使用不可のルールをつくる。

総務省の調査から、ペースメーカーへの電波の影響はほぼないことが分かりました。なので、もしもの時のことを考えて、優先席に座る人だけは携帯電話を「使用しない」というルールにすればよいと思います。電源オフにしなくても、使用しなければペースメーカーをつけている人も不安に感じることがないと思うからです。

「マークを付けることで席を譲ってもらいやすくする」という提案から孟子の思想を踏まえていることが分かる。また、「若い女性、体型が気になるお父さん、立っているのがつらい人、高齢者、高齢者以外の優先者、ペースメーカーを使っていて不安に思っている人」と多様な人を想定して配慮している（公正な判断）。座席の位置変更という提案は具体的でオリジナリティがある。この他にも、韓非子の思想に基づいて「優先席」ではなく「専用席」という規則をつくるという案や、罪悪感を利用するためにマナーのポスターが車両全体に描かれた車両を走らせ、車内ではストレス軽減のためにクラシック音楽を流すという案、混雑具合や平日休日を見越して優先席が時間で変更できるようにする案など、具体的で公正に判断しようとしている提案が生徒から数多く出された。

これは本実践を通して、諸子百家の思想を用いて意思決定したり合意形成を図ったりしたことで、当事者として社会的事象を捉え公正な判断ができるようになったことを示している。

（イ）学習プロセスを振り返らせることで、学習の意義をより理解させ、基礎力、思考力を深めることができる。

「思考力」の深まりを検証するために、学習の最後に「諸子百家の思想を用いて電車の優先席について考える学習の前と後で、自分の考え方や社会を見る目はどのように変化したか？」と問い、自由に記述させた。生徒の記述は、大きく３点に分けることができる。第１に、先哲の思想を用いて社会問題を見ることの有効性に言及した記述である。例を挙げる。「学習をする前はマナーやルールについて考えたことがなかったけど、学習することによって、孔子や孟子などの考えを踏まえてマナーやルールについて考えることができたので、様々な見方から考えることができた。また、この考えは孔子の考え方と同じなのかなと考えるのが楽しかったです」。第二に、様々な立場や考え方をもつ人に配慮することの難しさや重要性に言及した記述である。例を挙げる。「社会には様々な考えの人が本当にたくさんいるので、全員を納得させることは本当に難しいことだと思った。また弱い立場にいる人に気を配ることが大切だと私は思った。鉄道会社の人の話を聞いて、鉄道会社にもいろいろな事情があることが分かった」。第三に、社会参画への意識について言及した記述である。生徒の記述例を挙げる。「優先席の問題は授業でやる前から知っていたけれども、正直あまり深く考えたりはしていなかった。しかし、今回授業でこの問題に向き合ってもっと私たち若い世代が行動していかなければならないのではないかと思った。これから社会のために何かしたいなと感じるようになった」。このように、多くの生徒が学習プロセスを振り返ることで、先哲の思想を用いて社会問題を考えることの有効性、様々な立場や考えに配慮することの難しさや重要性、社会参画への意識といった本単元で学んだことを自覚し学習の意義を理解している。これらから本実践を通して「思考力」が深まっていると判断する。

「基礎力」については、振り返りシート「資料活用の技能」のＡ評価が 22 名（55%）、「知識・技能」のＡ評価が 32 名（80%）となっており、多くの生徒が学習プロセスを振り返ることで学習の意義を理解できたということが明らかになった。

イ　今後の課題

本実践の課題は、公正な判断や意思決定をしてつくった提案書の現実可能性が低かったということである。これは、X 電鉄の方からのコメントを頂いた際に明らかとなった。X 電鉄の方には提案書五つを事前に読んでもらい意見交換したのだが、実現可能性については厳しい指摘を頂いた。指摘は、鉄道会社の現場の声であり説得力がある指摘であった。「なるほど」「確かに」とつぶやく生徒の姿が見られ、多くの生徒が納得している様子だった。生徒の提案書の実現可能性が低いということは当事者感や公正さについての考慮が足りなかったということを意味する。この課題を解決するためには、本実践では X 電鉄の方と話して終わったが、もう一度提案書を修正するという段階を設ければ更に現実的な提案が可能となることや、会社側の立場や考え方も勘案して提案書をまとめていける可能性が高まることにより提案書の実現可能性（当事者感や公正さについての考慮）が高まったのではないかと考えている。

（７）検証授業で使用した教材

資料１　ワークシート

倫理　授業プリント　No.20　（教科書 p.65－67）　　組　　番　名前
（　　）

テーマ：孟子や韓非子の思想を用いて現代の問題を考える。

１．電車の優先席のマナーについてどう思うか？

　Ｘ電鉄では全車両に優先席を設けている。高齢者や身体障害者、妊娠中や乳幼児を連れている人には席を譲るように呼びかけている。また、優先席付近では携帯電話電源オフをよびかけている。これは、関東 17 の鉄道事業者が共通のマナーとして呼びかけている。
　これらの電車の優先席のマナーについては賛否両論がある。きまりやルールにして取り締まったほうがよいのだろか。それとも別のよい方法があるのだろうか。

（１）前回書いてもらった「自己評価プリント（Ｔ１）」のみんなのコメント

●きまりやルールにして取り締まったほうがよい
・最近の優先席には、携帯電話を使用している若い人が多くみられるが、私は平気でそのようなことができる人が許せません。本当に優先席を求める人が心地よく座れないと思う。

●きまりやルールにして取り締まる必要はない
・マナーを守らない人が多くいるけど、きまりやルールで取り締まったら、優先される側の人は快適だけど、優先する側は不快な思いをしたり、時には自由が失われてしまうかもしれないから反対です。

●その他
・ルールにしてしまうと電車が使いづらいと思うようになる人もいると思う。でもマナーのままだと例えば高齢者が何歳からなのかとか細かいところがあいまいになる。それがマナーの悪さにつながっていると思う。はっきりとした線引きが必要。

きまりやルールにして取り締まったほうがよ	２０
きまりやルールにして取り締まる必要はない	１１
その他	４

２．孔子、孟子、韓非子の思想を思い出す

（１）孔子　①マナー、きまりやルールについての孔子の考えは？⇒プレゼンテーション用ソフト
（　　）

（２）孟子①孟子の思想を表す具体例を挙げてみる。
（　　）

②プレゼンテーション用ソフトに表示される文章（『孟子』）の意味を書いてみよう。

（３）韓非子

①きまりやルール（法）について韓非子はどのように考えていた？
（　　）

②プレゼンテーション用ソフトに表示される文章（『韓非子』）の意味を書いてみよう。

３．孔子、孟子、韓非子の思想を用いて「電車の優先席のマナー」を考える。

（１）資料を読んでみる。⇒毎日新聞「神奈川版　記者のきもち：気持ちよく譲り合い」2015/8/27、大阪日日新聞「金井啓子のなにわ現代考　適切に使われない優先席」2015/7/14、パワポ

（２）トゥールミン図式を使って自分の考えをまとめよう。

（事実）

（結論）

（理由）

（重視する価値）

（３）４人１組で話し合って、それぞれが重視する価値は尊重しながら、具体的な解決策を考える。

（４）資料を読んでみる。⇒総務省「生体電磁環境に関する検討会第 12 回」資料、朝日新聞「悩みのるつぼ」2013/1/5、朝日新聞「優先席付近の『携帯電源オフ』必要なの？」2015/8/11

（５）四人一組で話し合って、東急電鉄に提案する具体的(・・・)な(・)解決策を考える。

３　実践事例Ⅱ

科目名	現代社会	学年	第１学年

（１）単元名、使用教材

・単元名　（２）現代社会の人間としての在り方生き方

　　エ　現代の経済社会と経済活動の在り方

・使用教材　清水書院『高等学校 現代社会 最新版』

（２）単元（題材）の目標

・　主体的に取り組み、他者と合意形成しようとしている。

・　ワークシートの課題に対して「幸福・正義・公正」を用いて論理的に表現できる。

・　諸資料を読み取り、有効に利用できている。

・　外国人介護福祉士候補生の受入を進めることについて基本的知識を学習し身に付けている。

（３）単元の評価規準

ア関心・意欲・態度	イ思考・判断・表現	ウ資料活用の技能	エ知識・理解
①課題について考え、主体的に関わろうとしている。 ②グループで議論し、他者と合意形成する態度を高めている。	①それぞれの人の立場を考慮した記述ができている。 ②どの価値を重視したか明確にし、論理的に自己の考えを表現している。 ③自分考えを他者に伝えようとしている。	①外国人介護福祉士候補生の受入を進める諸資料を読み取り、情報を適切に選択し効果的に活用している。 ②単元を振り返り、学んだことをまとめることができる。	①外国人介護福祉士候生の受入を進めることについて、基本的知識を学習し、身に付けている。

（４）　単元の指導計画と評価計画　（４時間扱い）

時	ねらい・主な学習活動	評価の観点				評価規準（評価方法）
		関	思	技	知	
第1時	【ねらい】外国人労働問題について、既存の知識の範囲で意思表明できる。また、外国人介護福祉士候補生受入を進めていくことについての背景や現状を理解する。					
	・外国人観光客の増加について、写真やグラフを通じて関心をもつ。	●				・外国人観光客の増加について賛成か反対かを表明している。（ワークシートT1）
	・外国人介護福祉士候補生の受入を進めていくことについての意見を既存の知識で意見をワークシートに記入する。		●			・既存の知識の範囲で意思決定している。（ワークシートT1）
	・外国人介護福祉士候補生受け入れまでの背景や現状について、新聞や資料を用いてワークシートに記入し、理解する。			●	●	・外国人介護福祉士候補生の受け入れの背景や現状について多角的に理解をしている。（ワークシート・考査）
第2時	【ねらい】外国人介護福祉士候補生の受入を進めていくことについて、施設側や利用者のメリット・デメリットについて考察することができる。					
	・新聞記事・資料を通して、外国人介護福祉士候補生受け入れの背景や現状について、ワークシートに記入し、再確認する。			●	●	・外国人介護福祉士候補生受け入れの背景や現状についてその知識を再確認している。(ワークシート・考査)
第3時（本時）	【ねらい】外国人介護福祉士候補生の受入を進めることについて自分の重視する価値を表明できる。グループワークを通して様々な立場からから考察する。					
	・外国人介護福祉士候補生の受入を進める上でここまで学習してきた現状を踏まえそれぞれの立場を理解する。		●			・これまで学習してきた現状を踏まえ、様々な立場を理解している。(ワークシート・考査)
	・２回目の意思を書き、第１回の書いたことと比べることで自己の変容を確認する。		●			・自己の重視する価値を明らかにしている。（ワークシートT2）

	・四人一組のグループでロールプレイを行う。 【ロールプレイで登場する立場】 施設長、外国人介護福祉士候補生、 施設の研修担当者、利用者 ・グループの意見をまとめ、A3 用紙１枚に記入し黒板に貼り**発表する**。各自のワークシートにも記入する。	● ●				・それぞれの立場を理解し、「幸福・正義・公正」を用いて意欲的に探求している。（ロールプレイ） ・それぞれの立場のメリット・デメリットを踏まえて考察している。（ワークシート）
第４時	【ねらい】外国人介護士候補生の受入を進めることについて**他者の意見も参考に、**自己の意見を振り返る。また、自己の重視する価値を明らかにし、この問題について社会に自己の考えを提案する。					
	・議論を踏まえ、もう一度自分の考えをまとめる。また、本時の冒頭に書かせた自分の変容を確認する。 ・前時で話し合った結果、各自の意志表明のまとめなどを見ながら、再び自己の重視する価値を明らかにし自己の意志を表明する。また、この意志をもとにして、投書を書く。宿題とする。	●	● ●	●		・学習の振り返り、ロールプレイを踏まえ、自己の重視する価値を記述している。（ワークシート　T3） ・自己の重視する価値を明らかにしながら、投書を書いている。（投書）

（５）本　時　（全４時間扱い中の第３時間目）

ア　本時の目標

・グループワークを通し、外国人介護士候補生の受入を進めることについて、様々な立場から考察する。

・様々な立場を理解した上で、課題について自分の重視する価値を表明できる。

イ　本時の展開

時間	学習内容・学習活動	指導の留意点	評価規準 （評価方法）
導入 10 分	・本時のねらいと進め方を示す ・外国人介護福祉士候補生の受入について様々な立場があることを理解する。 ・第１時に記入したワークシートを返却する。返却された自己の重視する価値を振り返り、再度、同じ問題について自己の重視する価値を表明する。	・「ミニホワイトボード」に本時の進め方を示す。 ・キーワードになりそうな用語に印を付けながらプリントを読む。 ・「何が問題か」、数人の生徒に発表させる。 ・振り返りシート（２回目）に自己の重視する価値を記入し、読み比べる。 ・AREA の法則*にのっとってまとめさせる。	イ-①（観察・ワークシート） イ-②（観察・ワークシート）
展開 25 分	・「外国人介護福祉士候補生の受け入れを進めるべきか」について、四人一組（五人一組や三人一組もあり得る）になり、ロールプレイを行う。 **ロールプレイでの立場** ・施設長　・施設の研修担当者 ・外国人介護士候補生・施設の利用者 ・グループとしての意見をまとめ、A3 用紙１枚に記入し黒板に貼る。また、各自のワークシートにも記入する。	・プリントを配布する。 ・グループで各立場に立って議論を進める。 ・五人一組の時は、利用者を二人に増やし、一人は肯定派、一人は否定派にする。 ・話し合いの内容が、どの立場の人も全員が納得できる内容になっているか、また少数者の意見に配慮できているかという視点を忘れないよう注意を促す。 ・配布した A3 用紙に班の結論のみ記入したものを黒板に貼らせる。他のグループが出した結論を視覚化させ理解させる。各自のワークシートにも記入させる。	イ-③（ロールプレイ） ア-②（ワークシート）
まとめ 10 分	・議論を踏まえ、もう一度自分の考えをまとめる。また、本時の冒頭に書かせた自分の変容を確認する。	・AREA の法則にのっとってまとめさせる。 ・プリントに自分の考えがどのように変容したのかを確認させる。	イ-②（ワークシート）

*AREA の法則　思考ツールの一つで、意見の発表を A(Assertion 主張)、R(Reasoon 理由)、E(Evidence 論拠)、A(Assertion 主張)の順に話す手法

（６）単元の振り返り

ア　仮説の検証

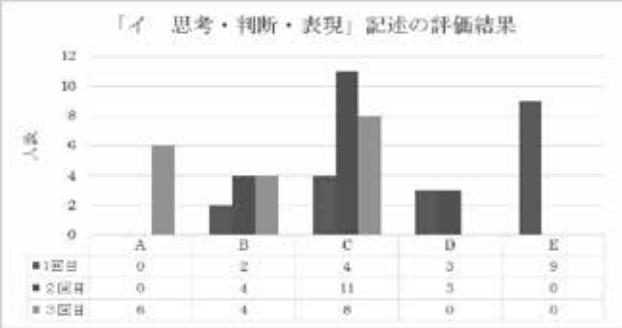
（ア）意思決定及び他者と合意形成をはかる学習を行うことで、当事者として社会的事象を捉えることができ学習意欲が喚起される。また、他人と協働することで公正な判断に近付くことができる。

ｉ）検証方法と結果

仮説を検証するために、振り返りシートを３回記入させた。１回目は、外国人介護福祉士候補生を受け入れることに関しての自分の意見を、学習を行う前に記入させた。２回目は、外国人介護福祉士候補生を受け入れるまでの背景、イスラーム教の学習、受け入れに関係する人々の立場を学んだ後に記入させた。３回目は、ロールプレイを実施し、他者と議論した後に記入させた。

本実践では、「当事者として社会的事象を捉える」とは、振り返りシートの記述の内容が具体的で提言が明確であること、「公正な判断」とは、振り返りシートの記述の内容が自分の考えが異なる他者や少数者などに配慮していることと考えることができる。

そこで、３回の振り返りシート「イ　思考・判断・表現」を分析し、生徒はどのように変容したのかを明らかにする。結果は以下のとおりである。



※「どの価値を重視しているか明らかになっているか」、「全員に配慮しているか（公正な判断）」、「理由が具体的に述べられているか」、「説明にオリジナリティがあるか」という評価規準のうち、A：全て満たしている、B：三つ満たしている、C：二つ満たしている、D：一つ満たしている、E：どれも満たしていない。

*サンプル数は単元時間内に全て出席した生徒である。

ⅱ）考察

１回目はD・Eが多く（66%）、２回目はC・Dが多く（77%）、３回目はA・Bが多い（55%）という結果となった。一方で、「分からない」と記述した生徒が１回目は全体の 60%いたが、２回目には 11%、３回目は 10%と減っていった。

１回目の生徒の記述で最も多かった「分からない」の理由は「知識がない、はじめて聞いた」という意見が多く、賛成した生徒の理由も「少子高齢化、文化の違い、介護士が少ない」と生徒によって違うが一つ理由を挙げる生徒が多かった。２回目の生徒の記述では、受入の背景、イスラーム教についての学習、関係する人々の立場を学習したことで、１回目の記述で「知識がないから」、「はじめて聞いたから」という生徒が「日本語を覚えることが難しいこと、人材不足の中で外国人介護福祉士候補生を受け入れることも必要だが、国家試験が難しいことが問題」などの意見をもつことができるようになったのが分かる。２回目でも「分からない」と答えた生徒の記述には、１回目の理由を「良いところは、外国人のほうが、コミュニケーション力があるイメージ、悪いところはやっぱり言葉が通じなかったりすること」とイメージで説明していたが、「良いところは経験者で仕事にまじめ、悪いところは、施設側の負担が大きいところ」とより具体的な事柄に記述が変化し正義・公正へと近付いているのが分かる。３回目になると、施設側の立場、外国人介護福祉士候補生の立場、互いの文化の違いに振れながら自己の重視する価値を述べられる生徒も現れた。

本実践をとおして、生徒は、「分からない」状態から主体的・協働的学習を行うことで、当事者として社会的事象について考えることができるようになってきたと言える。合意形成によって公正な判断に近付き記述が具体的になり、記述が回を重ねるごとに評価規準を満たすものになった。このことから学習意欲が喚起されたといえる。一方で、自分が重視する価値に当たる理由のみ記述をする生徒が多い。これは思考ツールを利用させる際に、書き込むための細かな手だてが不足していためだと考える。書くことが苦手な生徒が、公正的な判断ができるワークシートを用意する必要があった。

（イ）その学習プロセスを振り返らせることで、学習の意義をより理解させ、基礎力、思考力を深めることができる。

「思考力」の深まりを検証するため、学習の最後に「外国人介護福祉士候補生の受入を進めることについて、学習の前と後で、自分の考え方や社会を見る目はどのように変化したか？」と問い、自由記述させた。生徒の記述から以下の傾向が見られた。

第１に他者とのロールプレイ及び議論（協働的な学習）を通して公正な判断に近付いたという記述である。例を挙げると、「最初はもっている知識が少なかったので、よく分からなかったが、授業に参加し知識が付いたところでの自分の意見は進めるべきと変容した。３回目にグループワークを終え、それぞれの意見の差を認識した上で、自分の意見が外国人介護福祉士候補生の受入に賛成できないと変化した。グループで話し合ったことで、賛成だと表明した自分の意見には、とても負担が大きいことが分かった」、「外国人介護福祉士本人や施設長、研修担当の方、利用者といろいろな人の意見を聞いても自分の考えは変わらなかったが、グループ内の意見を聞いた。受け入れない理由をもう少し詳しく聞いて考え方が変わった。」などの記述があった。これらから協働的な学習を行うことで、自分の意見が客観的なものとなり、公正的な判断に近付くことを認識し、学習意欲が喚起されたと言える。

第２に、本単元などの社会問題について関わっていこうという気持ちの変化はもてた生徒ともてなかった生徒がいた。社会問題に関わろうと考えた生徒は全体の半分にあたる。「自分には関係が無いことや知らなかった問題について知ることができた」、「話合うことで相手の立場を知ることができる」と言った意見も出た。このことからも主体的・協働的学習を通し、学習プロセスを振り返ることで、社会参画の意識を自覚し、学習の意義を理解した生徒がいたことが分かる。一方で、残り半分の変化がなかった生徒はもともと興味があったが単元を通して考えや気持ちに変化なかった生徒、あるいは授業での活動内容が理解できずに話合い活動を行ったため議論を深めた実感をもてなかった生徒がいる。以上のことから振り返りを行うことで「思考力」が深まった生徒とそうでない生徒の半々に分かれる結果となった。

「基礎力」については、振り返りシートの記述によって検討した。結果、資料から諸問題を考えることはできたが、一問一答形式の回答率は低かった。振り返りシートの記述では、学習した知識の活用は進んでおり、学習意欲は高まったと言える。しかし、生徒は主体的・協働的学習を通じて知った知識を、その他の問題に活用するまでには至っていない。また、文章作成に苦手意識をもつ生徒が多く、振り返りシートに記述する過程で「文章が苦手である」と再認識した生徒、質問の意図通りに答えられない生徒がいた。今後も継続して思考ツールを用いて、文章を記述させる実践を行うことで情報を読み取るだけでなく、自ら書いて表現することもできるようになると考える。

イ　今後の課題

本実践の課題は３点ある。第一に、生徒に応じた思考ツールの検討である。今回使用したのはＡＲＥＡの法則という思考ツールである。思考ツールを用いたことで、以前は無回答だった生徒も何かしら記入するようなるなど以前より文章が書けるようになった。しかし、本校生徒は全体的に文章作成が苦手で、ＡＲＥＡの法則をそのまま利用するだけでは不十分だった。思考ツールは生徒の実態に応じ、より具体的に記述されられるような仕掛けを開発していく。

第二に、生徒が意見をもつには時間が足りなかったことだ。本実践では資料の読み取り、話合いなどを通じて理解を深めていくため、慣れない生徒にとっては時間が足りなかった。今後は、主体的・協働的な授業に慣れるためのプリントを作成し、スムーズな指導が行えるようする。

第三に、欠席してしまった生徒は社会参加力や学習意欲が喚起されづらい。本実践の対象クラスの在籍数は 31 名、その中で 18 名が全ての授業に参加できた。例えば振り返りの回答に、「それまでの授業に参加できなかったので答えられない」と回答した生徒が５名いた。生徒の欠席が多い学校では単元を通じて主体的な活動を学ばせていくことの難しさが浮き彫りになった。欠席してしまった生徒が､主体的に学び学習意欲を喚起させるフォロー体制を築くことが急務である。

（７）検証授業で使用した教材

資料１ワークシート（授業用ワークシートの例）

現代社会ワークシート　１７（Ⅱ部）　～外国人介護福祉士候補生③～

本時のねらい
外国人介護福祉士候補生の受け入れを拡大していくことについて、グループワークを通して様々な観点から考察することができる。また、ここまでの学習を通して外国人介護福祉士候補生の受け入れの拡大についての自分の重視する価値を表明できる。

テーマ　：外国人介護福祉士候補生の受入を積極的に進めることについて

５　外国人介護福祉士候補生の受入を積極的に進めることについてグループで話しあいましょう。

１）外国人介護福祉士候補生の受入を積極的に進めることについてこれまでの自己の意志を確認しよう。
→　振り返りシート参照　　※ここでは、自分のコメントを見るだけ!!

２）４人１組になって、以下の事例に基づいて「外国人介護福祉士候補生の受入を積極的に進めることについて」話し合おう。
〇ある施設の施設長Ａさんは、次のようなことに悩んでいます。

日本の少子高齢化が進む中、私の施設では利用者が年々増加し、常に介護スタッフが不足しています。
しかし、日本人向けに求人をかけても、介護業界の賃金の低さや休みの取りづらさなどもあり、なかなか人手を確保できません。そこで、EPA の制度を利用して来日したインドネシア人の介護福祉士候補生の B さんを雇うことにしました。
　Ｂさんを雇用できたことで、人手不足は一応解消されました。利用者さんに対しても非常によく対応してくれています。
一方、ＥＰＡの制度で来日する外国人介護士候補生を受け入れることの難しさも感じています。言葉や文化、宗教の違いや在留期間など問題もあります。試験に合格できなければ４年経ったら帰国してしまいます。これではせっかく働いてもらっても長くいてもらえません。本当に困りました。私は今後も積極的に彼らを受け入れていくべきなのでしょうか。

３）４人のメンバーそれぞれの役割を決め、話し合う時には、「**それぞれの立場**」を主張するところから話し合いをしよう。
　〇４人のメンバー
　　施設長 A さん・　介護福祉士候補生 B さん　・　研修担当の C さん　・　利用者 D さん

　〇「**プリント No１６　４の②それぞれの立場**」をしっかり確認し、この立場の基に話し合いましょう。

４）結論は最終的に出せなくてもかまいません。

５）意見は分かれることが予想されますが、以下の点を必ず考慮して全体の意見を導き出してください。

・別の立場の人でも納得できるものになっていますか？
・どの立場の人も皆がハッピーになれるものになっていますか？

６）話し合いが終わったら、班に１枚配布された A3 用紙に結論を記入し、前の黒板に貼りに来ましょう。

６　「外国人介護福祉士候補生の受入を積極的に進めることについて」の自己の意志決定をしよう。
　→　振り返りシート（三回目）に記入する。

施設長のＡさん メリット デメリット	外国人介護福祉候補生のＢさん メリット デメリット
研修担当のＣさん メリット デメリット	利用者のＤさん メリット デメリット

資料２　振り返りシート

１年現代社会　　**外国人介護福祉士候補生　振り返りシート　１**

～自己の変容を振り返る～

テーマ　外国人介護福祉士候補生の受入を積極的に進めていくことについて

◎1 回目　（これまでに持っている知識の範囲で自分の意見を表明する）

Assertion （主張）	
Reasoning （理由）	
Evidence （証拠や具体例）	
Assertion （主張）	

◎２回目　（授業に参加し、知識がついたところ自分の意見を表明する）

Assertion （主張）	
Reasoning （理由）	
Evidence （証拠や具体例）	
Assertion （主張）	

◎３回目（グループワークを終え、他者の意見も聞いた上で自分の意見を表明する）

Assertion （主張）	
Reasoning （理由）	
Evidence （証拠や具体例）	
Assertion （主張）	

1年　　組　　番　氏名

４　実践事例Ⅲ

科目名	現代社会	学年	第３学年

（１）単元名、使用教材

・単元名　　（２）現代社会と人間としての在り方生き方

　　イ　現代の民主政治と政治参加の意義

・使用教材　帝国書院『高等学校　新現代社会』

（２） 単元の指導目標

・　幸福、正義、公正の視点を理解することができる。

・　地方自治体の課題について、幸福、正義、公正の視点を用いて、意思決定及び他者と合意形成することで、政治的教養を育成するとともに、社会参画力を高める。

・　学習プロセスを振り返ることで、学習の意義を理解することができる。

（３）単元の評価規準

ア　関心・意欲・態度	イ　思考・判断・表現	ウ　資料活用の技能	エ　知識・理解
①「地方自治体をより良くするためのアイディア」について、個人やグループで意欲的に追究している。 ②単元を振り返ることで、公共的な事柄に自ら参画しようとする意欲や態度を高めている。	①「地方自治体をより良くするためのアイディア」を幸福、正義、公正の視点を用いて表現している。 ②具体的かつオリジナリティある提案にしている。	① 地方自治体の基礎情報を調べるために、統計データを適切に選択して、効果的に活用している。	①現代社会の諸課題を考察するために、幸福、正義、公正という視点があることに気付き、その知識を身に付けている。 ②地方自治に関する基本的な知識を身に付けている。

（４）単元の指導と評価の計画（４時間扱い）

時	ねらい・主な学習活動	評価の観点 関	思	技	知	評価規準（評価方法）
第1時	【ねらい】　Ａ市をよりよくするためのアイディアを既存の知識の範囲で考えることで、社会に主体的に関わる態度を高める。また資料を効果的に活用し、Ａ市の基礎情報を読み取り、まとめている。					
	・なぜ、Ａ市でＢ級グルメ、ゆるキャラ、街コンが誕生、開催されたのかを考える。 ・Ａ市をよりよくするためのアイディアを既存の知識の範囲で、自分の意見を表現する。 ・資料からＡ市の基礎情報を読み取り、少子高齢化や財政難などの課題に気づく。 ・Ａ市の良い点や改善点をまとめる。	● ● ●	● ●	●		・Ａ市をよりよくするためのアイディアについて、意欲的に追求し、１回目の意思決定をしている。（振り返りシート T1） ・Ａ市の基礎情報を調べるために、統計データを適切に選択して、効果的に活用している。（発言・ワークシート）
第2時	【ねらい】　幸福、正義、公正の視点を使い、多面的に考察し公正な判断に近付く。トゥールミン図式を活用し、アイディアを具体的かつオリジナリティある提案にしている。					
	・Ａ市長選の候補者の政策を読み、自分のアイディアの参考とする。 ・現代社会の諸課題を考察するために、「幸福、正義、公正」といった視点に気付く。 ・自分の考えを論理的にまとめるために、トゥールミン図式を学ぶ。 ・これまで学習した内容を踏まえて、自分の意見を表現する。 ・個人で考えたアイディアを、グループで共有する。		● ● ● ●	●	●	・現代社会の諸課題を考察するために、幸福、正義、公正という視点があることに気付き、その知識を身に付けている。（観察・ワークシート） ・幸福、正義、公正の見方・考え方を用い、2 回目の意思決定している。（振り返りシート T2）

第3時（本時）	【ねらい】　Ａ市をよりよくするためのアイディアをグループで議論し、政策討論会を行うことで、現代社会の諸課題を協働的に追究し解決（合意形成・意思決定）する力を高めている。					
	・幸福、正義、公正の視点を生かし、グループの意見を一つにまとめる。実現性を踏まえ、政策討論会の資料を作成する。 ・グループの代表者がＡ市長立候補者となり、政策討論会を行うことで、地域課題に取り組むことの大切さを学ぶ。 ・グループでの話合いや政策討論会を踏まえ、自分の意見で表現する。	●	●		●	・グループで合意形成・意思決定を行い、現代社会の諸課題を協働的に追求し解決する力を高めている。（観察・ワークシート） ・グループでの話し合いや政策討論会を踏まえて、自己の考えを述べている。（振り返りシートT3）
第4時	【ねらい】　本単元を振り返ることで、公共的な事柄に自ら参画しようとする意欲や態度を高めている。					
	・考えたアイディアを市の担当部署に提案書を提出することで、主権者としての考えを表明することができることに気付く。 ・地方自治における直接請求権（条例の制定・改廃、事務の監査、議会の解散、議員・首長の解職、主要な職員の解職）や、住民の選挙権と被選挙権について理解する。 ・単元を振り返り、社会参画に関して自分の考えの変容に気付く。	●	●		●	・地方自治に関する基本的な知識を身に付けている。（ワークシート） ・単元を振り返ることで、公共的な事柄に自ら参画しようとする意欲や態度を高めている。（ワークシート）

（５）本時（全４時間中３時間目）

ア　本時の目標

グループ議論、政策討論会を行い協働的に解決（合意形成・意思決定）する力を高めている。

イ　本時の展開

時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点	評価規準 （評価方法）
導入 ３分	・本時の学習課題を把握する。 「アイディアをグループでまとめ、政策討論会を実施しよう」	・学習課題を黒板に明示、生徒が本時の目標を意識できるようにする。また、プレゼンテーションソフトで本日の授業の手順を説明する。	
展開 42分	・幸福、正義、公正の視点を復習する。 ・Ａ市は財政難であったことを振り返る。実現度を高めるために、どうすればよいか考える。 ・グループ意見をまとめるために、２軸のグラフでアイディアを可視化する有効性に気付く。 ・アイディアを一つにまとめる。 ・四つのグループの代表者による討論会を行う。代表者以外は、聴衆となり、ワークシートを記入する。 ・最も良いアイディアをもつ候補者に○を付け、投票を行う。	・幸福、正義、公正について、生徒に発問し復習する。（ベンサムの功利主義、ロールズの格差原理） ・実現度を低いアイディアを選んでもよいが、どうやって実現するか、質問されても答えられるように指導する。 ・机間指導を行い、適宜助言を与える。 ・司会は教員が行い、円滑に討論が進むようにする。生徒から質問がない場合教員が代表者へ質問する。 ・誰が幸福になるアイディアかの実現度はどうか。 ・正義、公正を意識しているか ・反対意見に対する説明はあるか　等 ・投票結果は、第４時の授業で発表することを伝える。	エ-②（発言） エ-②（観察） ア-①（観察・ワークシート） ア-①（観察・ワークシート） イ-①（発言・観察）
まとめ ５分	・政策討論会を踏まえ、Ａ市をよりよい街にするためのアイディアを、振り返りシートに記入する。	・時間が不足した場合は、次回までの宿題とする。	イ-①（振り返りシートT3）

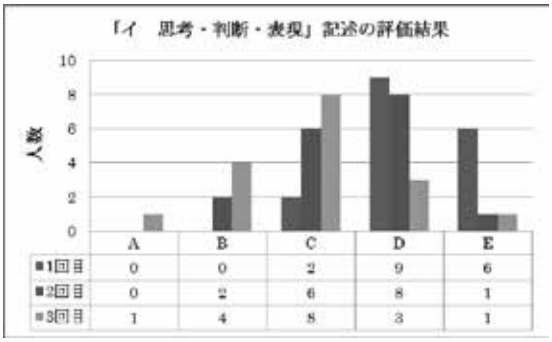
（６）単元の振り返り

ア　仮説の検証

（ア） 意思決定及び他者と合意形成を図る学習を行うことで、当事者として社会的事象を捉えることができ学習意欲が喚起される。また、他人と協働することで公正な判断に近付くことができる。

ｉ）検証方法と結果

仮説を検証するために、振り返りシートを３回記入させた。１回目は、Ａ市の現状や、幸福、正義、公正といった視点を学習する前に記入させた。２回目は、幸福、正義、公正といった視点を学んだ後に記入させた。３回目は、自分が考えたアイディアをグループで共有し合い、一つの意見にまとめ、政策討論会を実施した後に記入させた。本実践では、「当事者として社会的事象を捉える」とは、振り返りシートの記述や提案書の内容が具体的でオリジナリティがあり実現可能性が高いこと、「公正な判断」とは、振り返りシートの記述や提案書の内容が自分と考えが異なる他者や少数者など全員に配慮していること、と考えた。そこで、３回の振り返りシート「イ　思考・判断・表現」を評価、分析し、生徒はどのように変容したのかを明らかにする。結果は以下の通りである。



	A	B	C	D	E
1回目	0	0	2	9	6
2回目	0	2	6	8	1
3回目	1	4	8	3	1

※「どの価値を重視するか明らかになっているか」、「全員に配慮しているか（公正な判断）」、「提案は具体的か」、「提案はオリジナリティがあるか」という評価基準のうち
A：全て満たしている、B：三つ満たしている、
C：二つ満たしている、D：一つ満たしている、
E：どれも満たしていない、とした。

ⅱ）考察

１回目はＤ・Ｅ評価が多く（88.2%）、２回目はＣ・Ｄ評価が多く（82.3%）、３回目はＢ・Ｃ評価が多い（70.1%）結果となった。また、「分からない」又は無回答の生徒が１回目では５名（29.4%）いたが、２回目以降は０名となった。以下、生徒の記述の変化やグループでの話し合いの観察から考察を行う。

最初に１回目と２回目の生徒の記述の変化を挙げる。１回目では、「店を多くする。森とかばっかりで、他の市より店の量が少ないと思うし、栄えているお店がないと思うから、Ｂ（＊大手ショッピングモール）のような店とかショッピングモールとか」という意見が、「ショッピングモールを作る。家族連れだったり、小さい子からお年寄りまでのたくさんの年齢層が来てくれるから。何年経っても若い人の人口とかが減ってはいけないと思うし、その中の店を安くすれば、幸福や正義といったこともできると思う。」となった。１回目で自分の幸福を主に考えていた生徒が、２回目では、学習した幸福、正義、公正の視点からベンサムの功利主義を踏まえた意見に変化した。その他にも、１回目は、便益を受ける対象者が曖昧で自分本位の意見が、２回目では、高齢者や若者、市外の人、障害者など、誰が幸福になるのかを意識し、ベンサムの功利主義やロールズの格差原理を用いて意思決定を行い、公正な判断をしようとしている記述が多く見られた。

次に同じ生徒の３回目の記述は、「観光スポットやグルメを作る。小さい子から大人までの幅広い年代の人が、お金をかけずに来れるところがあれば、市外の人も集まってよいと思う」であった。グループ内で、「Ａ市は財政難であることからショッピングセンターの建設は難しいのではないか」という意見が出て、より現実的なアイディアに変化した。また「ショッピングセンターよりも、来る人がお金をかけないでよい」という意見もあり、より多くの人への配慮がみられた。その他にも、一人でアイディアを考えるよりもグループで話し合うことで学習意欲が喚起され、より公正な判断を意識し、具体的なアイディアに変化した記述が見られた。

以上のことから、本実践を通して、当事者として社会的事象をとらえることで学習意欲が喚起され、他人と協働することで公正な判断に近付くことに、一定の成果があったと考える。

（イ）学習プロセスを振り返らせることで、学習の意義をより理解させ、基礎力、思考力を深めることができる。

「思考力」の深まりを検証するために、学習の最後に「Ａ市をよりよい街にするためのアイディアを考える学習の前と後で、自分の考え方や社会を見る目はどのように変化したか？」と問い、自由に記述させた。生徒の記述は、大きく二つに分けることができた。

第１に、幸福、正義、公正の視点を用いることの有効性に言及した記述である。例えば「ショッピングモール等の様々な施設を見たときに、誰のために作られたのかを考えるようになりました。」「誰もが納得することができるような考えをつくってみたいと思った。もう少し勉強してみたい。」「この幸福、正義を学ぶことによって、みんなが幸せになるのかを考えたり、Ａ市をもっと知ろうと見る目が変わったと思う。」が挙げられる。これらの記述から、幸福、正義、公正の視点が、社会的事象を分析、価値判断に有効であると生徒は認識し、さらに学習意欲の喚起にも有効であったと考えられる。

第２に、グループで協働することの有効性に言及した記述である。例えば「グループで話し合って、自分の周りだけではなく、市民全員がよくなるように考えなければならないと思った。」「最初は分からなかったけど、話し合っていくうちに、みんなが幸せになれるようなアイディアを出していくことができた。」「皆のアイディアをグループで話した際に、色々な考えがあり、これを本当に実現できたら人が本当に来るのかなどと考えることができた。」が挙げられる。これらの記述から、グループで協働することが、より公正な判断に近付く、具体的なアイディアにするために有効であったと考えられる。

「基礎力」は、「Ａ市の課題を二つ答えなさい」という問題を単元の最後の時間に行った結果、80％以上の正答率だった。これは学習のプロセスを振り返った影響と考えられる。

以上のことから、学習プロセスを振り返ることで、学習の意義をより理解、「思考力」「基礎力」が深まったのではないかと考えられる。

イ　今後の課題

本実践の課題は身近な社会的事象に対し、当事者意識をもたせることである。取り上げた対象はＡ市だったが、本校生徒の居住地はＡ市以外の生徒も多い。そのため、課題に対して「自分は住んでいないので関係無い」「Ａ市について分からない」という生徒が少なくなかった。統計資料を読み取らせるなどし、Ａ市について基礎情報を習得させたが、あまり時間をかけることができず、表面的になってしまったことは否めない。結果として、一部の生徒の

当事者意識がなかなか芽生えず、アイディアの具体性やオリジナリティが欠けてしまった生徒が少なくなかった。例えば、Ａ市の職員を招いて講演をしていただいた後に、アイディアを考えさせることや、他の似たような市の事例などの資料を用意するなどし、生徒の当事者意識を高めることができれば、本時の指導目標をより達成できたのではないかと考える。

（７）検証授業で使用した教材　　資料１　ワークシート

2015 年　　月　　日　　現代社会　No.23

Ａ市をより良い街にするために③－政策討論会―

【本日の学習課題】

１．グループの意見を１つにまとめよう。

（１）まとめるためのポイント

①「　　」「　　」の２つの視点を意識しているアイディアか。

②アイディアの実現可能性（費用）はどうか。

→Ａ市は「　　」のため、お金をたくさん使うことは難しい。

③Ａ市の課題である「　　」に有効なアイディアか。

Ｑ１　グループのアイディアを下のグラフにまとめよう。

＜実現度　高い＞

（格差原理）　　（功利主義）

＜実現度　低い＞

２．政策討論会の資料を作成する

（１）Ａ市の現状

Ａ市長に立候補した（　　）です。
Ａ市は（　　）街です。
良いところは（　　）です。
しかし（　　）課題があります。

（２）Ａ市をより良くするためのアイディア

Ａ市の現状を踏まえて、私はこれからのＡ市を（　　）街にしていきたいと考えています。
そこで私は（　　）という
アイディアを考えました。
このアイディアによって（　　）メリットがあります。
以上で、発表を終わります。

（３）討論会で質問予定の項目

誰が幸福になるアイディアか？	アイディアの実現度と対策は？	アイディアのデメリットと対策は？

メンバーの名前	①	②	③	④	⑤	⑥
アイディア（メンバーのアイディアを書く）						
誰が「幸福」になるか？（○をつける）	子ども・若者・労働者・高齢者・市外の人・その他（　　）	子ども・若者・労働者・高齢者・市外の人・その他（　　）	子ども・若者・労働者・高齢者・市外の人・その他（　　）	子ども・若者・労働者・高齢者・市外の人・その他（　　）	子ども・若者・労働者・高齢者・市外の人・その他（　　）	子ども・若者・労働者・高齢者・市外の人・その他（　　）
重視する「正義」は？（○をつける）	功利主義・格差原理	功利主義・格差原理	功利主義・格差原理	功利主義・格差原理	功利主義・格差原理	功利主義・格差原理
メモ						

Ⅵ　研究の成果

今年度の研究では「社会参画力を育むための主体的・協働的な指導の在り方」を研究主題とした。先述のように主体的な活動と協働的な学習を行う必要性が求められている。仮説を検証するために「振り返りシート」を各単元内で３回記入させた。振り返りシートには「これから社会のために何かしたいなと感じるようになった。」などの感想が記入され、実践を通して社会の諸問題に対して当事者意識が高まった傾向が見られた。このような生徒の振り返りや実践事例の検証から、生徒が意思決定を行ったり、他者と合意形成を行ったりすることで生徒の「思考力」、「基礎力」、「実践力」を一定程度向上させることができたと考える。

（ア）意思決定及び他者と合意形成を図る学習を行うことで、当事者として社会的事象を捉えることができ学習意欲が喚起される。また、他人と協働することで公正な判断に近付くことができる。

本研究では、社会的事象に関する課題を通して、公正な判断を考慮しながら意思決定及び他者と合意形成を図る過程を適宜振り返った。意思決定及び他者と合意形成を図る学習を取り入れたことで、資料解釈、思考ツールなど社会的な見方・考え方を積極的に取り入れて課題に取り組んだ。その結果、社会的事象を学習前よりも当事者として捉えることができるようになった。生徒は当事者意識が芽生えることによって学習意欲が喚起され、より主体的に取り組むことが可能になった。また、他人と協働することで課題についてより具体的で現実的な案が記述されるようになった。このようなことから公正な判断に近付いたと考えることができる。

実践事例Ⅲでは、「地方自治体をよりよくするためのアイディアを考える」について思考ツールや資料から考え、グループで合意形成を図る活動を行った。生徒が自己決定できるように、あるいは文章が書けるようにワークシートを工夫した。その結果、生徒が課題に対して当事者意識をもって考えることができるようになり、課題に対して学習意欲が喚起された。また、グループで話し合わせたことで、一人で考えるよりも多角的に見ることが可能になり、より公正な判断に近付き、具体的なアイディアが記述されるようになった。実践事例Ⅲではワークシートの分析からより公正な判断を意識し、具体的なアイディアに変化し「思考力」「実践力」に向上したことが検証できた。

（イ）学習プロセスを振り返らせることで、学習の意義をより理解させ、基礎力、思考力を深めることができる。

本研究では学習意義をより理解させ、「基礎力」、「思考力」を深めるために学習プロセスの振り返りを実施した。各研究員は各単元の終わりの授業において生徒の社会認識が深まったことを振り返らせ、また基礎的な知識の定着を確認させた。そして、単元学習の前後で、自分の考えや社会を見る目がどのように変化したのかを「振り返りシート」に自由記述させた。この振り返りを通して、生徒は自己の社会認識が深まったこと、思考ツールが論理的に考え表現することに有用であること、自己の社会参画力への意識が向上したこと、公正に近付くことの難しさを自覚できるようなった。実践Ⅱの振り返りシートから「グループで話し合ったことで、賛成だと表明した自分の意見には、とても負担が大きいことが分かった。」などの記述がみられ「思考力」の高まりが読み取れた。また、このように多面的な立場から考察させるためにも、多くの資料や情報を読み取るための「基礎力」が必要であるという認識をもたせることができた。

実践事例Ⅰでは、「思考力」の深まりを検証するために学習プロセスを振り返る自由記述を行った。ワークシートには、「マークを付けることで席を譲ってもらいやすくする」（孟子の思想）などのように先哲の思想を用いて社会問題を見ることの有効性や、様々な立場や考え方に配慮することの難しさや重要性、社会参画への意識が高まりなどの記述がみられた。このように、学習プロセスを振り返ることで、本単元で学んだことを自覚し学習の意義を理解している。実践事例Ⅲでは「誰もが納得することができるような考えをつくってみたいと思った。もう少し勉強してみたい。」など学習意欲が高まり、学習の意義を理解した記述もみられた。これらから、本実践を通して「思考力」が深まっていると言える。また、「基礎力」については実践事例Ⅰで振り返りシート「資料活用の技能」のＡ評価が 22 名（55%）、「知識・技能」のＡ評価が 32 名（80%）という結果が出ており、多くの生徒が「基礎力」を身に付けることができていることがわかる。実践事例Ⅲでも「Ａ市の課題を二つ答えなさい」という問いに対し、80%以上が正解をした。これらのことから学習意義が深まったことで「基礎力」についても身に付けられるようになったと言える。

Ⅶ　今後の課題

今年度の研究は「思考力」、「基礎力」、「実践力」を向上させるために、「社会参画力を育むための主体的・協働的な学習の指導の在り方」を主題にして授業実践や研究協議を進めてきた。各検証授業では社会的事象に関する課題を提示し、意思決定及び集団学習を行い、学習プロセスを振り返る授業を実践した。授業では、グループで話し合うことで学習意欲が喚起され、より公正な判断を意識し、具体的なアイディアに変化した。意思決定したことで、当事者として社会的事象を捉えて課題を取り組む傾向がみられた。また、学習プロセスを振り返ることで、様々な立場や考えに配慮する視点をもって自己の意見をもてるようになり、社会参画の意識を自覚し、学習の意義を理解できた生徒もいた。一方、実践事例Ⅲのように主体的学習に慣れない生徒の中には、学習活動を時間内にこなすことができない生徒や、文章作成に苦労する生徒もいた。それでもワークシートを工夫し、また思考ツールや資料活用について学ぶ過程を経ると、全般的に生徒の記述には明確な変化が表れているので、身に付けさせたい「思考力」、「基礎力」、「実践力」を育てるためには主体的で協働的な学習が改めて必要であると考えた。その意味で、題材をどの社会的事象にすれば生徒がより主体的でより具体的な案を提案できるのか、授業にはどのような資料が必要となるのか等を追究し教材研究を深めていく必要がある。

一方で、実践事例Ⅱに見られたように、生徒の出席状況に課題のある学校で主体的・協働的な学びを行うにはどのような指導体制をとっていくべきかについても検討していく必要がある。また、評価という観点では、本研究はワークシートの記述内容及び授業中の生徒の様子の観察から評価を行ったが、今後は意思決定や合意形成を行うときにどのような評価観点が必要なのかを十分に議論していく必要がある。

本部会が「社会参画力を育むための主体的・協働的な学習の指導の在り方」について考察し、授業実践を行う中には、講義型授業とは違った活発な議論が多くあった。生徒は課題に対し試行錯誤し、多面的・多角的に事象を捉えようとしていた。また、学習者自身が学びのプロセスをメタ認知し、自己効力感をもって課題に取り組む姿があった。今後も公民科として社会参画力を育むための主体的・協働的な学習の指導の在り方を研究していく必要があると考える。

平成２７年度　教育研究員名簿

高　等　学　校　・　公　　民

学　校　名	課程	職名	氏名
都立三宅高等学校	全日制	教諭	◎ 末吉　智典
都立荻窪高等学校	定時制	教諭	代田　有紀
都立五日市高等学校	全日制	教諭	山下　孝之
都立雪谷高等学校	全日制	教諭	小貫　　篤

◎　世話人

〔担当〕東京都教育庁指導部高等学校教育指導課
指導主事　松本　桂

平成２７年度
教育研究員研究報告書

高等学校・公民

東京都教育委員会印刷物登録
（平成２７年度第１９７号
平成２８年３月）

編集・発行　東京都教育庁指導部指導企画課
所　在　地　東京都新宿区西新宿二丁目８番１号
電話番号　（０３）５３２０－６８４９
印刷会社　正和商事株式会社

リサイクル適性Ⓑ
この印刷物は、板紙へ
リサイクルできます。